

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691700011		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	徳島県吉野川市山川町祇園51番地2		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3691700011&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族に安心して任せてもらえるよう全職員で統一した質の高いサービス提供に取り組んでいる。家で食べられるような季節の味を味わっていただく食事を利用者と職員と共に作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見晴らしの良い静かな高台に位置し、その一画には医療機関がある。24時間対応の訪問診療があり、利用者や家族、従事者にとって安心できる暮らしと支援の場になっている。災害対策については、自然災害や火災などを想定した訓練を夜間に実施し、地域住民の参加と協力をいただける体制が整えられている。協力をいただく地域の住民には、車いす介助の講習会なども実施している。昔から地域で親しまれてきた食事を大切に、季節の野菜を菜園で利用者と共に作り、手作りの食事を提供して喜んでもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にして家庭的な環境の中で共同生活を行い、心身の状態を維持し、また持っている力を活かして安心して生活していただけるよう援助している。	地域の中での生活の継続を念頭に置き、全職員で理念を共有し、家庭的な環境を大切にしている。利用者の暮らしを家族と共に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や地域の清掃活動に参加し、地元の人々と交流を図る機会を持っている。	地域の職員が多く、情報も得やすく行事などでの交流もある。年3回の広報誌を地域の婦人会、老人会などへ配布している。近所からは季節の野菜などいただき、その食材で作った食品をお返しするなど、双方向のお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等に、認知症の方々に対する接し方等を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に対するアンケートを実施し、集計結果は運営推進会議で報告している。意見をいただいたことについては検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	利用者や家族、地域代表、行政、事業所の苦情相談員が参加し、2か月毎に実施している。不参加の人には議事録を送付している。行事やアンケート結果、評価などの報告や議論がなされサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者から介護予防教室について、説明していただいている。	状況報告や事業所の広報誌を持参するなど機会をつくり、担当者に実情を話したり、情報をいただく関係を積極的に築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにおいて身体拘束に関する話をし、正しく理解してケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて研修を行い、全職員が正しく理解して取り組んでいる。玄関は自由に出入りできる。出かけようとする人には、一緒に行動するなどして支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修および虐待に関する研修会を事業所内でも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、利用者並びに家族に対して説明し、承認後に署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を聞き、年1回のアンケート調査を実施している。この時出た意見等については職員間で検討している。また運営推進会議に参加していただくなど、意見を反映させる機会を設けている。	意見箱の設置やアンケートの実施、面会や電話のときなど機会あるごとに、意見を聞いている。家族や利用者の要望や意見はミーティングで話し合ったり、運営推進会議でも検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回、部署別ミーティングや毎日のミーティング、主務者会で職員からの意見等を聞く機会が設けられている。	現場では何でも言える環境をつくり、代表者が出席する会議にも参加し意見を言っている。年末には文章にて代表者に直接意見を述べる機会もあり、各職員の意見や提案が伝わる仕組みをつくり、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己申告書を職員に提出してもらい、その意見を運営に反映している。また、職員が自己の長期・短期目標を設定し、達成度を確認しながら働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の年間スケジュールを作成し、職員を段階的に育成している。また法人全体で行う研修会への参加を促している。資格取得に向けて、有資格者がアドバイスをを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者及び家族と面会し、家庭環境や生活状況を聞き、ホームでの暮らし方について話し合いの中で合意している。その記録については、様式があり保管している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、一緒に過ごす時間をつくっている。また利用者並びに家族と面接を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接を行い、担当介護支援専門員とも相談している。場合によっては主治医にも相談し、グループホームの利用が可能か否かを判断してもらうときもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のリズムで生活が送れるようにしている。調理や清掃など家事については職員と共に行うようにしている。また、対話の中から昔のことを教えていただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族と話し、常に希望を聞きながら一緒に利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の要望等によって、外出時に立ち寄り家近くの通ったりとできるだけのことを行っている。	出かけた時に、利用者が住んでいた所や働いていた所、よく行っていたお店などを見て回るなどしている。知人の来訪や電話、手紙のやり取りなど馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係に気を配り、職員が中に入ったり一緒にいられるよう声かけを行ったりして、参加していただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護支援専門員に情報提供し、利用終了者が必要なサービスや情報を得られるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書の作成にあたっては本人本位に検討し、利用者並びに家族の意見を反映できるようにしている。	一人ひとりの過去や環境の状況を知り、その人を知る努力をしている。声かけや話しをする等できるだけゆとりを持って寄り添い、ゆっくりと関わる中で意向や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行き、入居状況調査票に情報を記載している。その情報を職員に回覧し、周知徹底している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際にケース記録及び生活記録表を参考にしたり、家族からも現状に対する意見をいただき総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員を決めて、介護サービス計画書作成にあたっては、事前に家族に要望等を聞き、カンファレンスを実施している。会議については計画作成担当者、担当者介護職員、介護支援専門員で行っている。身体面では主治医に相談している。	利用者や家族の意見をよく聞き、他の職員との意見交換や医師への相談、利用者担当など関係者との話し合いによって作成されている。状況の変化や家族などの意見により随時見直し、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は生活記録表に記載し、この記録をもとにサービス計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行動障害のある利用者については、本人に付き添い散歩を行うことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設と合同の防災訓練、近隣の小学校の運動会への参加などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医による定期的な訪問診療を行っている。受診結果は連絡帳に記載している。家族の希望によっては、他の医療機関への受診も可能になっている。	協力病院による24時間対応の往診体制や定期的な訪問診療など、利用者や家族がともに納得した医療支援がなされている。他科の診療についても、家族が希望する医療機関などと連携を持ち、通院など家族と相談しながら支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の主治医とは、訪問診療時に相談している。併設施設の看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対して、事業所での生活の情報提供を行っている。入院した際は定期的に様子を伺いに行き、主治医や看護師に経過を聞きながら退院が近づけば受け入れ態勢を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態が変化した時の対応方針を契約時あるいは運営推進会議の時に説明し、家族に同意を得ている。	「心身の状況が変化した時の対応指針」を明記し、利用開始時早期から説明して同意をいただいている。状況により関係者や職員、医師とも話し合い、家族の意向を確認して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の看護師に依頼し、緊急時の対応方法についての研修を行ったり、ミーティング等をできるだけ開いて職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で防災に関する諸規程を設けている。防災訓練は年2回、併設施設と合同で行い、近所の協力体制も築いている。	夜間の災害訓練の実施にあたり、地域には回覧板で実施案内を行い、参加時の懐中電灯を各戸に配布して訓練に参加していただくなど、年間を通じて協力してもらえ体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護方針を事業所内に掲示し、取り扱いを徹底している。日頃からプライバシーの保護にも努めている。	日常生活行動など本人の気持ちを大切にしたりさりげなく関わり、自己決定できるよう、支援することを話し合いながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望を聞きながら対応を行っている。認知症によって伝えていないことがわからない方もいるので理解が困難な場合は、家族とコミュニケーションをとりながら対応方法を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を第一に考えながら常に対応を行っているが、全利用者に対して十分とはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者及び家族の希望にそって理・美容院へ行くことが可能である。家族の協力を得て美容院へ行かれたり、職員が協力したりすることがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の精神状態及び身体状況により声かけを行っている。利用者の好き嫌いを聞かせていただきながら楽しく行っているが、食事作りを好まれない方もおられる。	季節の野菜を菜園で作り、草取りや収穫なども一緒に行い、食事の準備や片付け、好きな食べ物などを話し合いながら、手作りの食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事摂取について、記録を行っている。食事摂取量に限度のある方についても気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。実施の記録も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	使用可能な方や本人が望む方には紙パンツから布パンツにし、おむつ外しを行っている。排泄方法についてはマニュアルを作成して実施している。実際にトイレで排泄が可能になった方もおられる。	布パンツの使用やトイレでの排泄を維持していただくことを目標にし、その人の排泄方法を検討して支援している。夜間もその人の状況とタイミングを見て声かけをして、トイレでの排尿を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む野菜を献立に入れたり、朝食時にはヨーグルトなど便通を促すような食材をつけたりしている。排泄チェックシートを確認して排便の間隔があいていれば、主治医に相談して便秘薬を投与してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日に関係なく実施し、時間も利用者の希望にそって行っている。	ゆずを絞った後の皮やみかんの皮を干して風呂に入れるなどして、より楽しめるよう工夫している。希望する時間、必要に応じた入浴ができるよう支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の安眠を妨げないように、尿とりパットは吸収力の高いものを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明については利用者ごとに管理している。薬の目的・副作用・用法について理解に努めている。全職員が服薬時には必ず薬袋と利用者の顔を見て他の職員に聞こえる声で氏名の確認を行い、服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の精神状態及び身体状況によって、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援したりしている。また本人の能力に応じて清掃・調理・ゴミ捨て等の役割をもってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出されたり、天候により外で過ごされたりする時間がある。	外食や地域の催しへの参加などの外出を行い、理・美容室の利用や買い物など家族の協力を得て利用者の要望や思いを把握し、外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持することの大切さを理解しているが、お金を使用する機会をあまり設けていないのが現状である。またお金の管理については、本人の自己責任の範囲内であることを家族に入居時に説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の訴えの状況により電話をかけさせていただくことはある。また家族に対する毎月の状況報告を、担当職員がお手紙として送付させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や机、配膳台等は手作りのものを使用している。採光についても配慮している。利用者に季節を感じていただくような環境づくりを行っている。ホール内には日めくりカレンダーをおいて、利用者にくめていただくようにしている。	玄関は花や置物で清楚に飾られ、台所や居間、食堂の中に、利用者が好きところで居場所を確保し、ゆったりと過ごされている。部屋の中央にはコタツを置いて寝転がったり、台所の様子を実感したり、壁や机の上などには、空間を生かした馴染みのある絵や写真、花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約6畳半ほどの畳のスペースを確保している。そこで思い思いに過ごしていただくようにしている。冬場はこたつを設置し、気軽に過ごしていただくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家電製品等の持ち込みは、自由に行っている。自宅で使われていたものを気軽に持ち込めるようにしている。	部屋には、写真や置物、使い慣れた家具、テレビなどを置いている。その人の使い方に合わせた工夫をして、自分の部屋としてゆとりと過ごせるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力を活かしていただくよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にして家庭的な環境の中で共同生活を行い、心身の状態を維持し、また持っている力を活かして安心して生活していただけるよう援助している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校の運動会や地域の清掃活動に参加し、地元の人々と交流を図る機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等に、認知症の方々に対する接し方等を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に対するアンケートを実施し、集計結果は運営推進会議で報告している。意見をいただいたことについては検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者から介護予防教室について、説明していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにおいて身体拘束に関する話をし、正しく理解してケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修および虐待に関する研修会を事業所内でも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、利用者並びに家族に対して説明し、承認後に署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を聞き、年1回のアンケート調査を実施している。この時出た意見等については職員間で検討している。また運営推進会議に参加していただくなど、意見を反映させる機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回、部署別ミーティングや毎日のミーティング、主務者会で職員からの意見等を聞く機会が設けられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己申告書を職員に提出してもらい、その意見を運営に反映している。また、職員が自己の長期・短期目標を設定し、達成度を確認しながら働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の年間スケジュールを作成し、職員を段階的に育成している。また法人全体で行う研修会への参加を促している。資格取得に向けて、有資格者がアドバイスをを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者及び家族と面会し、家庭環境や生活状況を聞き、ホームでの暮らし方について話し合いの中で合意している。その記録については、様式があり保管している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、一緒に過ごす時間をつくっている。また利用者並びに家族と面接を行うようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接を行い、担当介護支援専門員とも相談している。場合によっては主治医にも相談し、グループホームの利用が可能か否かを判断してもらうときもある。			
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のリズムで生活が送れるようにしている。調理や清掃など家事については職員と共に行うようにしている。また、対話の中から昔のことを教えていただくこともある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族と話し、常に希望を聞きながら一緒に利用者を支えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の要望等によって、外出時に立ち寄ったり家の近くを通ったりとできるだけのことを行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係に気を配り、職員が中に入ったり一緒にいられるよう声かけを行ったりして、参加していただくようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護支援専門員に情報提供し、利用終了者が必要なサービスや情報を得られるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書の作成にあたっては本人本位に検討し、利用者並びに家族の意見を反映できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行き、入居状況調査票に情報を記載している。その情報を職員に回覧し、周知徹底している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際にケース記録及び生活記録表を参考にしたり、家族からも現状に対する意見をいただき総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員を決めて、介護サービス計画書作成にあたっては、事前に家族に要望等を聞き、カンファレンスを実施している。会議については計画作成担当者、担当者介護職員、介護支援専門員で行っている。身体面では主治医に相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は生活記録表に記載し、この記録をもとにサービス計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行動障害のある利用者については、本人に付き添い散歩を行うことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設と合同の防災訓練、近隣の小学校の運動会への参加などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医による定期的な訪問診療を行っている。受診結果は連絡帳に記載している。家族の希望によっては、他の医療機関への受診も可能になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の主治医とは、訪問診療時に相談している。併設施設の看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対して、事業所での生活の情報提供を行っている。入院した際には定期的に様子を伺いに行き、主治医や看護師に経過を聞きながら退院が近づけば受け入れ態勢を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態が変化した時の対応方針を契約時あるいは運営推進会議の時に説明し、家族に同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の看護師に依頼し、緊急時の対応方法についての研修を行ったり、ミーティング等をできるだけ開いて職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で防災に関する諸規程を設けている。防災訓練は年2回、併設施設と合同で行い、近所の協力体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護方針を事業所内に掲示し、取り扱いを徹底している。日頃からプライバシーの保護にも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望を聞きながら対応を行っている。認知症によって伝えていないことがわからない方もいるので、理解が困難な場合は、家族とコミュニケーションをとりながら対応方法を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を第一に考えながら常に対応を行っているが、全利用者に対して十分とはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者及び家族の希望にそって理・美容院へ行くことが可能である。家族の協力を得て美容院へ行かれたり、職員が協力したりすることがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の精神状態及び身体状況により声かけを行っている。利用者の好き嫌いを聞かせていただきながら楽しく行っているが、食事作りを好まれない方もおられる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事摂取について、記録を行っている。食事摂取量に限度のある方についても気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。実施の記録も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	使用可能な方や本人が望む方には紙パンツから布パンツにし、おむつ外しを行っている。排泄方法についてはマニュアルを作成して実施している。実際にトイレで排泄が可能になった方もおられる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む野菜を献立に入れたり、朝食時にはヨーグルトなど便通を促すような食材をつけたりしている。排泄チェックシートを確認して排便の間隔があいていれば、主治医に相談して便秘薬を投与してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日に関係なく実施し、時間も利用者の希望にそって行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の安眠を妨げないように、尿とりパットは吸収力の高いものを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明については利用者ごとに管理している。薬の目的・副作用・用法について理解に努めている。全職員が服薬時には必ず薬袋と利用者の顔を見て他の職員に聞こえる声で氏名の確認を行い、服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の精神状態及び身体状況によって、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援したりしている。また本人の能力に応じて清掃・調理・ゴミ捨て等の役割をもってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出されたり、天候により外で過ごされたりする時間がある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持することの大切さを理解しているが、お金を使用する機会をあまり設けていないのが現状である。またお金の管理については、本人の自己責任の範囲内であることを家族に入居時に説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の訴えの状況により電話をかけさせていただくことはある。また家族に対する毎月の状況報告を、担当職員がお手紙として送付させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や机、配膳台等は手作りのものを使用している。採光についても配慮している。利用者に季節を感じていただくような環境づくりを行っている。ホール内には日めくりカレンダーをおいて、利用者にもくっていただくようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約6畳半ほどの畳のスペースを確保している。そこで思い思いに過ごしていただくようにしている。冬場はこたつを設置し、気軽に過ごしていただくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家電製品等の持ち込みは、自由にしている。自宅で使われていたものを気軽に持ち込めるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力を活かしていただくよう支援している。		